

は し が き

支那は謎の國である。この國に生起するところの一切の現象が、他の國のそれとは全く範疇を異にして居りこれを本質的に理解することが極めて困難なる所以は、實に支那家族制度の特異性に存するのである。

支那の家族制度は極めて根強い封建性に支配され、併も非科學的な迷信と、因襲と、形式的な儒教が更にその封建性に輪をかけ、名狀すべからざる複雑怪奇な様相を呈してゐる。

この支那の「家」を中心とする人間の生態を究明することによつて、我々は古來より支那民族が、民族として、國家として、如何に宿命的な運命を擔はせられ、その宿命に翻弄されつゝ、そのなかで、根強く生き伸び來つた姿と生き方とを見出すことができるであらう。

實に支那の家族制度こそは、支那に於けるすべての社會現象を根本的に理解するための最も重要な鍵鑰である。

このささやかなる小冊をもつて、複雑なる支那の家族制度のすべてを解明し得ざりしは勿論觀察の不徹底若くは誤謬の多々あるは言ふまでもない。たゞ本篇が多少なりとも、支那社會組織の基底を構成する家族制度の意義及び性質を理解するための一助ともならば幸甚である。

尙本書の執筆は最初 職員 黒崎文吉が當つたが、執筆半ばにして大東亞戦下、大君の醜の御盾として勇躍北の護りに馳せ参じた爲、引續き 職員 加藤六藏が當つた。

康徳八年十二月

目 次

は し が き	
第二章 家族制度	一
第一節 家族の意義	一
一 人間の社會性	一
二 家族の概念	二
三 家族と血統	三
四 血統と婚姻	四
五 家族の形式	五
六 家族と氏族	五
第二節 家族の起源に関する諸説	六
第三節 支那に於ける家族制度の法律的基礎	三
一 序 説	三

二 家長權	二四
三 家産制度	二八
第四節 支那に於ける家族の諸關係	二九
一 序説	二九
二 親子の關係	三〇
三 家庭に於ける妻の位置	三二
四 家族の統制と各員の關係	三三
五 血縁者間の關係	三三
六 尊長卑幼の意義	三四
七 爾雅釋親に於ける親族稱謂	三四
第五節 宗法	三七
一 宗法の意義	三七
二 宗法理論の特質	三八
三 宗法に基く家族形態	三〇

四 宗法的家族の構成	三三
五 宗法の職能	三三
1 親睦 2 祭祀 3 喪服 4 婚姻	
第六節 支那の村落社會と大家族制度	三九
一 支那に於ける村落社會の構成	三九
二 大家族制度の經濟的、道德的根據	四一
第二章 婚姻制度	四四
第一節 婚姻の意義	四四
一 文字の意義	四四
二 婚姻の倫理的意義	四四
三 宗法觀念	四五
四 有別觀念	四六
第二節 支那に於ける婚姻制度の變遷	四七
一 上古時代	四七

二	買賣婚時代	四七
三	周時代	四八
四	春秋時代	五〇
五	漢時代	五〇
六	六朝時代	五一
七	唐時代	五一
八	宋時代	五一
	第三節 婚姻の目的	五二
	第四節 婚姻に對する觀念	五二
	第五節 婚姻成立の要件	五八
一	定婚	五八
二	成婚	六一
三	主婚人	六一
四	媒人	六一

五	年 齡	六三
	第六節 婚姻の儀式「六禮」	六六
一	納采	六六
二	問名	六九
三	納吉	六九
四	納徵	六九
五	請期	七〇
六	親迎	七〇
七	六禮以後	七二
	第七節 婚姻の効果	七三
一	婚姻に因る親族關係	七三
二	婚姻に因る家族關係	七三
三	夫婦財産關係	七四
	第八節 同姓不婚制	七五

第九節 指婚・冥婚	七六
一 指婚	七六
二 冥婚	七九
第十節 離婚	八二
一 序説	八二
二 強制離婚	八二
三 協議離婚	八五
四 七出	八五
五 三不去	八九
六 休書(三下り半)	九〇
第三章 相続制度	九二
第一節 相続制度の意義	九二
第二節 宗祧承継	九三
一 宗祧承継の意義	九三

二 家長の繼任	九六
三 一子兩不絶	九七
第三節 家産承継	九八
一 家産承継の意義	九八
二 家産承継の慣習	一〇〇
三 家産の分割	一〇二
四 分割外財産	一〇三
五 私産の承継	一〇五
第四章 養子制度	一〇六
第一節 養子制度の意義	一〇六
第二節 異姓不養制	一〇八
第三節 養子の種類	一〇九
一 法定養子	一〇九
二 單純養子	一〇

三 恩 惠 養 子	一一〇
第四節 養子に関する慣習	一一〇
第五章 喪 服 制 度	一一三
第二節 喪服制度の意義	一一三
第二節 古代に於ける喪の制度	一一四
第三節 喪の種類	一一五
第四節 喪の等級の名稱	一一六
第六章 支那に於ける婦人の地位	一一八
第一節 支那の婦人	一一八
第二節 昏義及嬖服に於ける婦人の地位	一二〇
第三節 父に對する母の地位	一二一
第四節 婦人相互間の地位	一二三
第五節 支那の女・變態十二相	一二三
第六節 妾	一二九

一 蓄妾制の沿革	一二九
二 妾の地位	一三〇
三 妾の名稱	一三一
四 蓄妾の現状	一三三
五 蓄妾の原因	一三三
六 蓄妾の影響	一三五
七 妻と妾との關係	一三七
八 妾と喪服	一三九

附 錄 支那家族制度に関する用語解説
 主要参考文献